

素粒子論研究  
2008年2月号

青木 健一  
坂東 昌子  
九後 汰一郎 [編]

1404 pages  
1000円

# 基礎物理学の現状と未来

## 学問の系譜・湯川・朝永をうけて

本報告は2006年11月に基礎物理学研究所で開かれたシンポジウムの記録である。2005年の同名シンポジウムの続編として企画され、ビデオ記録から起こした原稿を元に、会場討論や懇親会での議論までを詳細に再現したものである。700枚もの講演スライドや100枚以上の会場スナップ写真も含まれている。歴史的な証言となるべき講演、長いスパンでの学問の展開を講演者個人の研究軌跡と絡めて総括した講演、物理学の新分野への展開を展望する講演、が多彩な討論によって深められ、全ての世代の研究者にとって貴重で得がたい内容である。

坂東 昌子	研究会に期待すること
橋本 幸士	弦理論と時空像の変革・Dブレーン
亀淵 迪	「湯川・朝永・坂田」— 三先生の印象 —
大貫 義郎	瞥見：1950～60年代にかけてのわが国での場の理論
蔵本 由紀	非線形科学は何を残したか
山田 耕作	相関の強い電子系の理論の進展
川畑 有郷	20世紀・21世紀の固体物理学
藤井 保憲	Non-Newtonian gravity から加速宇宙へ
石原 秀樹	理論研で育った者が受け継ぎたいこと

高安 秀樹	経済現象に潜む物理法則を探して
蛭名 邦禎	環境物理学へのいざない
中野 貴志	エキゾチックなハドロン
梶田 隆章	ニュートリノ研究のこれまでとこれから
佐藤 文隆	量子情報 — 湯川・朝永のやり残し —
松井 哲男	原子核と物質の極限状態
佐藤 勝彦	真空の相転移と宇宙 — 超新星からインフレーションへ —
大野 克嗣	まともな複雑性を調べることは何を意味しうるか？
宮田 隆	DNA の情報の解読：生物物理から分子生物学・進化学へ

購入をご希望の方は、湯川記念館106号室までお越し下さい